

28年5月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成28年5月1日～ 28年5月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
5月分の回答企業数は17社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/5月	26/6月	26/7月
入荷動向	スギ	20.5	15.9	18.2
	ヒノキ	△ 3.1	△ 6.3	△ 12.5
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	50.0	50.0
消費動向	スギ	10.0	10.0	15.0
	ヒノキ	0.0	△ 6.3	△ 6.3
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 2.5	7.5	7.5
	ヒノキ	0.0	0.0	6.3
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 25.0	0.0	0.0

・スギ原木の入荷は3カ月連続して増加。ヒノキは3カ月連続して減少。カラマツは3カ月連続して横ばい。トドマツは5月の横ばいから6月、7月は増加。

・スギ原木の消費は、3カ月連続して増加。ヒノキは5月の横ばいが、6月、7月は減少。カラマツ及びトドマツは3カ月連続して横ばい。

・スギ原木の在庫は5月のわずかな減少が、6月、7月は増加。ヒノキ及びカラマツは、総じて横ばい。トドマツは5月の減少が、6月、7月は横ばい。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	26/5月	26/6月	26/7月
スギ	△ 29.5	△ 13.6	△ 2.3
ヒノキ	△ 12.5	△ 18.8	12.5
カラマツ	0.0	0.0	0.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギの原木価格は弱含みで推移。ヒノキは5月、6月の弱含みが、7月は強含みに。カラマツ及びトドは3カ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

* (原木荷動き)

・4月は、概ね使用量相当が入荷でき良かった。通常は使用量の70%程度の入荷。受注増加状況が続いており、使用量は高い水準で推移（北海道）。

・これから出材時期。フル生産。入荷分消費（北海道）。

・スギは出荷増、価格安で仕入れ拡大。スギは販売好調（東北）。

・生産量が変わらないため、入荷量は変わらず。スギは傷みが目立つ時期なので在庫減少（関西）。

・入荷は順調。製材ライン老朽化により、消費量増加せず（中国）。

・入荷は5月少し減らす、6月は出材量にもよるが5月ベース位、7月は少し減らす。消費はほぼ変わらず6月が山になる。夏に向けて在庫は減らす（中国）。

・冬山から夏山に移行し、スギ丸太の出材・消費が増え始めた。ヒノキは減少傾向（価格が安いこともある）。在庫は入荷状況に比例（中国）。

・天候良好で4月に続いて5月も入荷良好（九州）。

・原木市場での特別市が続くが、天候次第。地震の影響がどうであるか。消費に余り大きな動きはないが、虫、くされ等の材の量にもよる。（九州）。

(原木価格)

- ・ 価格、当面変わらず（北海道）。
- ・ 原木入荷増で価格も全体的に下落（東北）。
- ・ 出材が安定していたので、当分下落の予想（関西）。
- ・ 製品販売が思わしくないので、原木価格多少下げ傾向（中国）。
- ・ 5月は少し上がるか、6月が谷で7月から徐々に上がる見込み（中国）。
- ・ ヒノキの3m、14-16cmだけが価格の変動激しいが、全体的には安値安定（中国）。
- ・ 価格は横ばい（九州）。
- ・ スギやや上昇、天候不順（梅雨）による（九州）。

28年5月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/5月	26/6月	26/7月
生産動向	スギ	9.1	4.5	4.5
	ヒノキ	12.5	0.0	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
出荷動向	スギ	△ 4.5	0.0	4.5
	ヒノキ	△ 6.3	△ 12.5	6.3
	カラマツ	—	—	—
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	22.7	0.0	9.1
	ヒノキ	12.5	6.3	12.5
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ製材品は3カ月連続してやや増加。ヒノキは5月の増加が、6月、7月は横ばい。カラマツ及びトドマツは3カ月連続して横ばい。

・スギ製材品の出荷は5月の僅かな減少が、6月は横ばい、7月は微増。ヒノキは5月、6月の減少が、7月は微増。トドマツは3カ月連続して横ばい。

・スギの在庫は5月の増加が、6月横ばい。7月は増加。ヒノキは3カ月連続して増加。カラマツ及びトドマツは3カ月連続して横ばい。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		26/5月	26/6月	26/7月
スギ	柱角 KD10.5×3	△ 22.7	△ 9.1	△ 4.5
	柱角 KD12×3	△ 27.3	△ 13.6	△ 9.1
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	桁角	0.0	0.0	0.0
	母屋角	△ 5.0	△ 5.0	△ 5.0
	タルキ	△ 5.6	△ 5.6	△ 5.6
	間柱	△ 13.6	△ 13.6	△ 4.5
	ヌキ	△ 6.3	△ 6.3	△ 6.3
	平割	△ 5.6	△ 5.6	△ 5.6
	ラミナ	△ 7.1	△ 7.1	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	△ 12.5	△ 12.5	△ 12.5
	柱角 KD12×3	△ 18.8	△ 18.8	△ 18.8
	土台角 10.5×4	△ 12.5	△ 12.5	△ 12.5
	土台角 12×4	△ 18.8	△ 18.8	△ 18.8
	通し柱 12×6	△ 12.5	△ 12.5	△ 12.5
	ラミナ	△ 10.0	△ 10.0	△ 10.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	0.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	0.0	

・スギ通し柱及び桁角の価格は、3カ月連続して横ばい。それ以外のスギ製材品は弱含みないしやや弱含みで推移。

・ヒノキ製材品の価格は弱含みで推移。

・カラマツ梱包仕組み板及びラミナの価格は3カ月連続して横ばい。トドマツサンギの価格は3カ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(製材品荷動)

- ・出荷は盛り上がりもないが、堅調（北海道）。
- ・10.5cm角は好調、12.0cm角は不振。出荷は生産と連動、売れ筋を生産し販売拡大（東北）。
- ・稼働日並みの生産。荷動きは悪くない。来月に少し盛り上がる気配あり、先行きに少し動きが見えるため、先行して仕入れを行うアイテムあり（関西）。
- ・製材ライン老朽化により消費量増加せず。販売状況好転せず。在庫が徐々に増えている（中国）。
- ・生産・出荷はほぼ変わらず、4月ベース位、仕掛在庫は少し増やして行く（中国）。
- ・5月から梅雨までの間、需要が上向くことを期待して生産量を増やした。出荷の動きはまだ低調。生産を増やしただけ、半製品の在庫が増加（中国）。
- ・通常通り稼働。販売不振、在庫やや増（九州）。
- ・荷動きは鈍いが、地震の影響次第では、各メーカーはそれなりの在庫を抱えているようだ（九州）。
- ・生産、出荷共に横ばい。大きな動きはない。今のところ、在庫状況も安定している（九州）。

(製材品出荷価格動向)

- ・今年ラミナの受注が戻って来た(北海道)。
- ・スギ12cm角が不振。ヒノキ12cm角は特に不振(東北)。
- ・スギは、柱と角ものは少し売りづらさもありやや下げ、次月間柱の値決めにて下げ予想。ヒノキは取扱いが少なく価格の変動はなし(関西)。
- ・スギ製品価格弱い。ヒノキ製品KDは5万円～5万5千円が主流(中国)。
- ・ヒノキの価格の変動は少ないと予想(中国)。
- ・製品の単価はスギ・ヒノキ共に変化なし、しばらくこの状態が続きそう(中国)。

28年5月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/5月	26/6月	26/7月
仕入動向	米マツ丸太	△ 50.0	△ 50.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	△ 100.0	50.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	50.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の仕入れは5月、6月の減少が、7月は横ばい。NZラジアータ丸太は3カ月連続して横ばい。

・米マツ丸太の消費は5月の減少が、6月は増加し、7月は横ばい。NZラジアータ丸太は3カ月連続して横ばい。

・米マツ丸太の在庫は5月の増加が、6月、7月は横ばい。NZラジアータ丸太は3カ月連続して横ばい。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/5月	26/6月	26/7月
米マツ丸太	△ 50.0	△ 50.0	0.0
NZラジアータ丸太	0.0	50.0	50.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の価格は5月、6月の弱含みが、7月は横ばい。NZラジアータ丸太は5月の横ばいが、6月、7月は強含み。

モニターからのコメント

(原木荷動)

・NZラジアータ丸太は、入荷・消費・在庫変化ない（中国）。

(原木価格動向)

・NZラジアータ丸太は変化ない（中国）。

28年5月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/5月	26/6月	26/7月
生産動向	米マツ製材品	△ 100.0	50.0	0.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向	米マツ製材品	0.0	50.0	50.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向	米マツ製材品	50.0	0.0	△ 50.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産は5月の減少が、6月は増加、7月は横ばい。NZラジアータ製材品は、3カ月連続して横ばい。

・米マツ製材品の出荷は5月の横ばいが、6月、7月は増加。NZラジアータ製材品は、3カ月連続して横ばい。

・米マツ製材品の在庫は5月の増加が、6月は横ばい、7月は減少。NZラジアータ製材品は、3カ月連続して横ばい。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		26/5月	26/6月	26/7月
米マツ平角		△ 50.0	0.0	0.0
米マツ正角		△ 50.0	0.0	0.0
米マツ小割		0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ		—	—	—
北洋アカマツタルキ		—	—	—
NZ梱包材(割板)		0.0	0.0	0.0
NZ梱包材(割角)		0.0	0.0	0.0
NZ土木用材		0.0	0.0	0.0
その他		—	—	—

・米マツ平角及び正角の出荷価格は5月の弱含みが、6月、7月は横ばい。米マツ小割は3カ月連続して横ばい。

・NZ梱包材（割板・割角）及び土木用材の出荷価格は、3カ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

・NZラジアータ製材品は変化ない（中国）。

(製材品出荷価格動向)

・NZラジアータ製材品は変化ない（中国）。